

史跡羽山横穴の取組

1. 遺跡の概要

①. 史 跡 要 項

- ・ 名 称 国史跡羽山横穴
- ・ 所 在 地 福島県南相馬市原町区中太田字天狗田 1 0 0－9 3・西畑 1 4 9－6
- ・ 指定年月日 昭和 4 9 年 1 2 月 2 3 日（文部省告示第 1 7 3 号）
- ・ 指 定 面 積 2 0 6 m²
- ・ 所 有 者 南相馬市
- ・ 管 理 団 体 南相馬市

②. 史跡の概要

南相馬市原町区（旧原町市）の中央を流れる太田川の北岸に発達した羽山丘陵には約 20 基で構成される羽山横穴墓がある。国史跡に指定されている羽山横穴は、この羽山横穴墓群の 1 号墳に相当する。

羽山横穴は昭和 48 年の羽山丘陵における住宅地造成中に発見された。造成作業中に地面に穴が開き、作業員が中に入り壁や天井に赤色顔料による絵画と刀等の遺物が発見された。原町市教育委員会では事業者の通報により現地確認し、緊急発掘調査が開始された。

発掘調査の結果、横穴は羨道・玄門・玄室からなり、玄室奥壁・側壁・天井に赤色顔料と白色粘土を使用した絵画をとまなう装飾横穴墓であることが確認された。



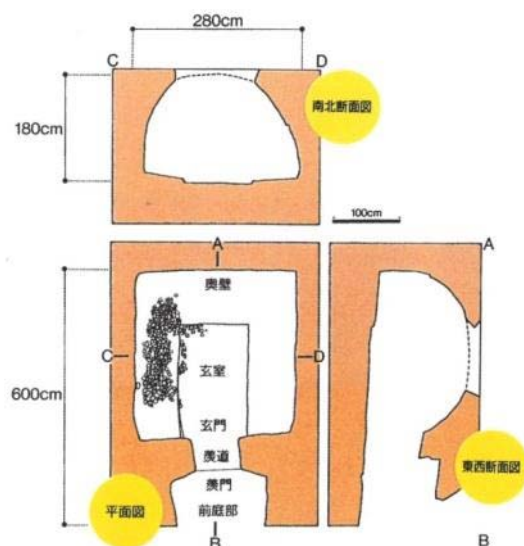
各施設の法量は以下のとおりである。

- ・前庭部 長さ約 3 m（羨門から台地縁まで）
- ・羨道部 長さ約 1.9 m
- ・羨 門 幅 1.35～1.75 m・長さ 1.9 m
- ・玄 門 幅 0.79 m・高さ 1.01 m・奥行 0.55 m
- ・玄 室 奥行 3 m・高さ 1.8 m

平面形：方形・天井形態：ドーム型

③. 装飾壁画の内容

- ・渦 卷 文 左右に並んだ右巻き 5 重の渦卷文。
各渦卷文を十字の朱線で区画し、
更に左右の渦卷文を上下 4 条の
直線の朱線で連結させる。（左渦
卷：直径 28×26 c m・右渦卷：直径 30×30.5 c m）
- ・長方形シルエット 内容不明（模式的な盾か 幅 12 c m×高さ 31 c m）
- ・白 鹿 頭部を左に向けた白鹿。白色粘土で全身を表現し、胴部に赤色顔料で斑点を表す。（幅 15 c m×高さ 10.5 c m）
- ・人 物 1 白鹿下部に表現された人物。両手・両足を左右に大きく広げる。腰に刀を表現したと思われる朱線がある。（幅 12 c m×高さ 18 c m）
- ・人 物 2 人物 1 の下部に位置する。両手・両足を左右に広げる。頭部は人物 1 と比して頂部が尖っており衝角付冑をまとっている可能性もある。（幅 12 c m×高さ 18 c m）
- ・馬 1 玄室中央線からやや左側に描かれた馬の頭部。顔を左に向け、顔と耳部が確認できる。（幅 12 c m×高さ 10 c m）
- ・人 物 3 馬 1 の左側に描かれた人物。頭部は円形に表現され、両手・両足を左右に大きく開く。左足は白色で表現される。（幅 11 c m×高さ 12 c m）
- ・馬 2 全身が描かれた馬。頭部を左に向け。顔・耳・前足・後足・尾が見られる。耳と尾は立ち、足は疾走するかのように交差して描かれる。（幅 16 c m×高さ 13 c m）
- ・人 物 4 馬 2 の前に立つ人物。頭部は人物 2 と同様に三角形に表現され、両手はやや下方に下げた形態をとる。当壁画では最も大きく描かれた人物である。（幅 10.5 c m×高さ 22.5 c m）
- ・蛇 行 線 人物 4 の左側に表現された性格不明蛇行線。左右に大きく蛇行し下部の水平線にする地点で二股に分かれる。
- ・馬 3 蛇行線の左側に描かれている。他の馬に比して表現が曖昧で詳細は不明。足とみられる表現と長い首がある。頭部付近には小さな顔とおぼしき表現がある。顔の頂部には白色粘土による二股の表現があるため、鹿の可能性もある。
- ・水 平 線 奥壁下部に施文された朱線。玄室奥壁左側と右側の渦卷文から長方形シルエットまでを水平の朱線で連結する。
- ・天 井 部 軒回りと棟線に幅 3～4 センチの赤色顔料で朱線を施す。天井部には赤色と白色の 2 色を用いて直径 3～5 c m の珠文を施す。





- ・側 壁 左右の側壁に各上下2列の白色珠文が見られる。左壁には上段13個・下段13個、右壁には上段10個・下段12個が描かれている。
- ・出土遺物 出土した遺物は玄室左側の礫床と前庭部から出土した。玄室内からはガラス玉・銅釧等の装身具、馬具・金銅装太刀・鉄製直刀、前庭部からは土師器・須恵器等が出土した。

④. 遺跡のまとめ

横穴は出土遺物から6世紀末から7世紀初頭の造営年代が想定される。玄室内部に装飾が施された横穴墓は茨城県から宮城県にかけた東日本の太平洋岸に点在し、特に福島県内では双葉町清戸サク横穴・いわき市中田横穴・泉崎村泉崎横穴著名な装飾横穴が知られており、いずれも国史跡に指定されている。

2. 遺跡の現状

・本横穴は造成工事中の不時発見により緊急調査が行われ、調査終了後保存施設が建設されている。保存施設は、建設前に工事造成中に穴の開いた天井部にFRP樹脂を充填して補修し、コンクリート製の覆屋が建設されている。覆屋は玄室天井部から玄門部を残すように設計されたため、羨道ならびに前庭部は記録作成後に削平された。

現在は、玄門部手前にガラス製と鋼鉄製扉で二重遮蔽し保存している。保存施設自体に特別な空調等の設備は設けていないが、年間を通して玄室内は温度15度前後・湿度95%以上で安定しており、カビ・コケ・害虫の発生などの状況は発生していない。

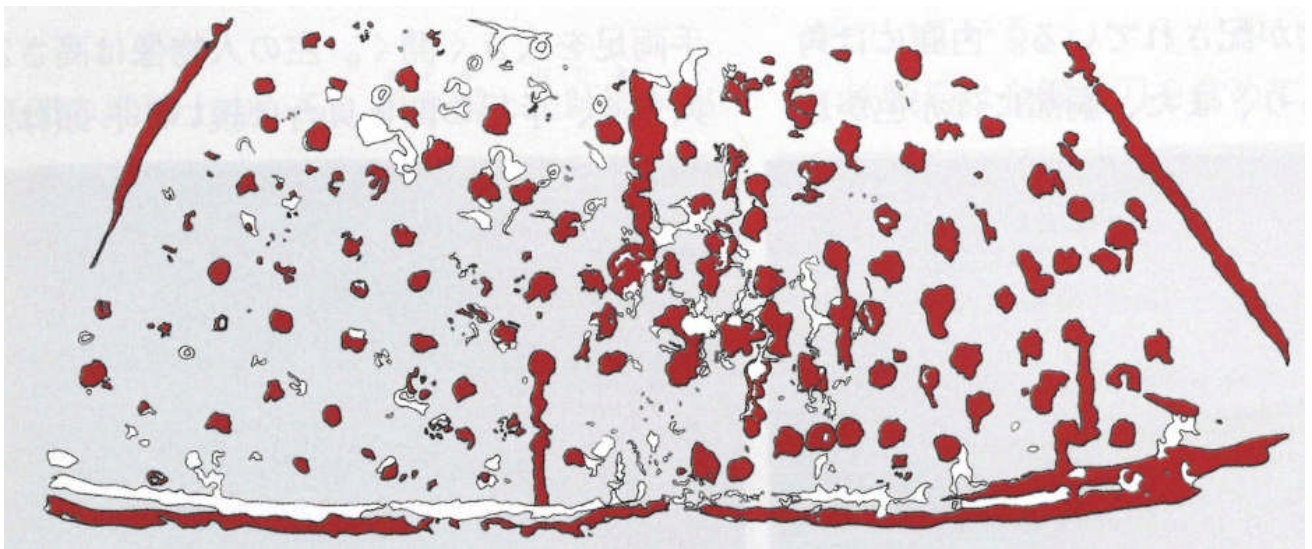
3. 保存上の課題

現在の羽山横穴は、玄室内の環境把握はアナログ式の温度計ならびに湿度計を使用して、公開の都度その情報を記録している状態である。それでも、玄室の遮蔽扉の開港は必要最小限に留めることにより、玄室内部の環境は、比較的安定していると言える。しかし、横穴墓の玄室内部の保存環境が年間を通じてどのように変化しているのかについては、統計学的な情報収集ができていないため、今後これらの情報を定期的に集約して、保存に対する基礎データの蓄積と、発見から約40年の年月を経て発見当時から比して奥壁の彩色が薄くなっているのではないかと指摘があり、彩色の退色の進行程度を科学的な視点からの経過観察を要する。

また、本横穴については史跡指定地における事業者の寄付による公有化が完了しているが、周辺には未調査の横穴墓が確認されていることから、これらの横穴墓の状況把握と、史跡を取り巻く環境保全を視野に入れた保存管理計画を策定する必要がある。

4. 活用の状況や課題・方向性等

東日本大震災以前は、4月・5月・9月・10月の年4回、各4時間程度の一般公開日を設けて、広く見学できる機会を設けていたが、震災発生以降は上位期間や研究機関の見学依頼を除く一般公開は中止している。特に東京電力福島第一発電所事故による放射性物質の除染作業に進捗が見られないため、今



後の一般公開の目途は立っていない。

一般公開日以外の見学希望者に対しては、南相馬市博物館常設展示している原寸大複製と出土遺物の展示による公開に努めている。

また、羽山横穴の保存施設は、建設後約 40 年が経過し老朽化ならびに急傾斜の階段の登り降りをする必要があり、高齢者ならびに小学校低学年以下の児童等の利用の際には転落等の危険があるため、抜本的な活用方法を検討する必要がある。

更に、周辺地は住宅地造成地であり主要幹線道路からのアクセス、駐車場、トイレ・ガイダンス等の便益施設が整っていないため、公開活用の際に大きな障害となっている事実がある。

これらを改善し、地域に残る文化財を震災復興の一助とするために、保存管理計画を策定し公開活用の検討ならびに羽山横穴を中心とする周辺環境の保全が急務である。